

亀成川源流部(印西市別所・宗甫地区)の自然環境の重要性について

～ 生物多様性評価レポート 概要版 ～

評価の目的・背景

印西市別所・宗甫地区は、現在、千葉ニュータウン 21 住区としての市街地開発が予定されている。しかし、市民の調査結果からこの場所は我が国全体からみても極めて重要性の高い生物多様性の豊かな場所であることが明らかになった。開発計画では一部は公園として保全への配慮がなされることとなったが、周辺の草地や水源地についてはその価値が十分評価されていない。そこで、既存の調査データを整理し、改めて当地全体の自然環境の重要性を専門的な知見から客観的に評価した^{*1}。



評価結果

(1) 全国的に見ても重要性の高い生物多様性のホットスポット

広範囲に残る草地、湿地、森林などの多様な環境が育む、豊かな生物多様性の存在が判明

多数の絶滅危惧種^{*2}（国指定絶滅危惧種 27 種、千葉県絶滅危惧種 109 種）と 830 種を越える多くの動植物がともに生息生育し、高い生物多様性が維持されている。

- ・ 関東地方に分布する草原性の植物の約 24 %が生育
- ・ 印西市の草原で見られる植物の 84%が生育
- ・ 広い生息地を必要とする猛禽類やキツネが生息
- ・ 動植物の種類数だけでなくその個体数も非常に多い
- ・ いくつかの絶滅危惧種は全国的にも最も重要な個体群となっている



源流域までつづく連続的水環境や地形、里山のモザイク的景観が
広範囲に残されていることが重要

関東地区最大規模の、全国的にも貴重な草地環境が存在

- ・ 40 年前の土地の粗造成によって作り出された広大な草地環境が、その後も草刈などで維持されたことで奇跡的に残っている。草地環境は全国的にも半世紀で激減してしまったが、ここでは草地に適応した希少な動植物が今でも普通に数多く見られる。
- ・ 特に当地の草地は裸地が露出するほど貧栄養な特殊環境で、他では見られない希少種が複数生育

わが国全体の草地生態系・草地性生物の保全からみても重要な場所

(2) 豊かな里山生態系・里山景観と地域の文化遺産

多様な里山生態系とその恩恵

- ・ 源流域の地形そのものや多様な景観要素、
台地上の湧水泉（宙水）
▶ 現在ではきわめて珍しく重要性が高い
- ・ 水涵養機能や水質浄化機能は、手賀沼流域圏の地域
社会にとっても重要な機能を担う



地域の文化遺産



- ・ 典型的な里山の文化的要素が残されている。
- ・ 江戸時代幕府直轄の牧草地である小金牧に隣接。
- ・ 北総台地上の台地里山タイプと谷津里山タイプの両方が隣接。
- ・ 典型的な里山的景観に加え、古くから続く宗甫・別所集落が隣接しており里山の文化的要素も残されている

(3) さらなる重要性の可能性も

今回の評価によってこの場所が我が国全体からみても保全上重要な場所であることが明らかとなった。しかし、多くの場所は未だ調査不足であり、植物以外の分類群についてもデータが不足しているためその重要性を十分に評価できない。また水源涵養機能を含むこの場所の生態系機能や歴史的要素も含めた重要性の評価も不十分である。手賀沼流域や我が国にとっての重要性を正確に評価するためにも、さらなる調査と状況把握を行うことが極めて重要である。



※1：評価方法：評価は亀成川源流部の集水域である別所・宗甫地区について行った。過去の調査結果や文献資料を基に情報を整理した。それを元に全国や千葉県・周辺地域における生物多様性・自然環境の状況と比較することで、相対的な重要性を客観的に評価した。必要に応じて大学や博物館等の専門家から全国・周辺地域の生物多様性の状況や当地の重要性についての評価について情報提供いただいた。

※2：いくつかの絶滅危惧種については日本全体から見ても保全上の重要性が最も高い個体群のひとつとなっているが、同時に盗掘・乱獲が生じる危険性も極めて高いため、ここでは具体的な種名の記載は控えた。

2012年4月27日作成

とりまとめ： 公益財団法人 日本自然保護協会

協力： 亀成川を愛する会

